

パラグアイ経済情勢

(2024年9月)

●住電装パラグアイが設立10周年

6日、住電装パラグアイが設立10周年記念式典を開催。同式典にはペニャ大統領、ヒメネス商工相、中谷駐パラグアイ日本国大使他が出席した。日系企業である同社は、現在、1,400名超に雇用を提供。同社によると、その従業員の約70%が女性、65%が30歳未満の青年で、地元人材の採用と育成に対する取組を進めている。

●ゴマの生産量・輸出拡大

11日、パラグアイ・ゴマ輸出会議所(CAPEXSE)のオソリオ会頭は、9月後半からゴマ生産の強化キャンペーンを開始し、本年の年間生産量を3.7万~4万トンに拡大する方針を発表した。同会議所によると、本年8月までにパラグアイは約23,200のトンのゴマ(4,241万ドル相当)を出荷した。主な輸出先はメキシコで9,212トン、次いで日本が7,447トン、トルコが1,020トン、台湾が1,000トン、ドイツが574トンなどで、約30カ国へ輸出されている。

●エクアドル企業ミッション

12日、「Uchu」スパイス・グループが率いるエクアドルからのビジネス・ミッションが、香辛料分野での対パラグアイ投資の可能性を検討すべく来訪。投資輸出総局(REDIEX)、国立植物・種子品質衛生サービス(SENAVE)関係者と会合するとともに、中北部サンペドロ県を視察し、地元農協との戦略的提携の可能性を模索した。

●超高層ビルの建設着工

13日、アスンシオン市内で、南米で最も野心的な建築プロジェクトの1つとされる「Petro Imperiale」の建設が着工された。同ビルは73階建て、高さ250メートルで、建設費は7千万ドル超。約2千人の雇用を創出する。完成すれば、パラグアイ国内で最も高く、南米でも第4位の建築物となる。

●コロンビア企業ミッション

25~27日、ボゴタ商工会議所の貿易ミッションがパラグアイを訪問。繊維産業、動物用医薬品、化粧品、食品サービス、建設、電気インフラ、アプリケーション開発等16社の代表がパラグアイ外務省、商工省関係者と会合し、ビジネス機会のプレゼンを行うとともに、両国間経済・投資関係の強化に関し協議した。

●パラグアイ産牛肉の対加輸出

26日、オタワで「Beef from Paraguay」が開催され、カナダの食肉輸入業者、流通業者、市場関係者等100社超が参加。このイベントは、カナダ市場におけるパラグアイ産牛肉のプレゼンス、ひいては両国間の貿易関係を強化すべく企画された試食会で、投資輸出ネットワーク(REDIEX)及びパラグアイ食肉商工会議所(CPC)の支援の下、在カナダ・パラグアイ大使館が主催した。本年5月対加輸出が開始されて以来、パラグアイは8月末までに約129万キロ(582万ドル)の牛肉を輸出。この実績により、カナダは月平均輸出量でパラグアイ産牛肉の第18位の輸出先となった。

(了)